

ふね遺産 第1回 応募案件-13

「ふね遺産」(応募様式): A4一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2016年12月8日提出 氏名(個人名または団体の代表者名): 碓崎 貞雄
 所属(個人は住所): ふね遺産西部支部調査検討委員会
 メールアドレス: skakizaki1126@krc.biglobe.ne.jp
 その他の連絡先: 山口県下関市一の宮町5-8-22

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート船防波堤 ・広島県西部建設事務所呉支部管理課 	
2. 対象物の作成・存在時期	<ul style="list-style-type: none"> ・800総トン EC型戦時標準船第一武智丸が1944年(昭和19)6月に竣工し、第二武智丸も続けて竣工して、両船は瀬戸内航路に就航した。 ・戦後の1947年(昭和22)に呉市安浦漁港に払い下げられ、両船は船尾同士をつなげて据付けられ1950年(昭和25)に漁港の防波堤となった。70年の歳月を経て現在に至るも健在である。 	
3. 現状(写真添付)	<ul style="list-style-type: none"> ・手前が第一武智丸が、奥が第二武智丸、突端は灯標。コンクリートの耐食性のため保存状態は良く原形をとどめている。 	 <p>第二武智丸: 船尾から船首を見る</p>
4. ふね遺産認定基準の該当項目	<p>【認定対象】 (1), (4) 【認定基準】 (7), (12)</p>	
5. 歴史的・工学技術的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次大戦末期の極度の鋼材不足に対処するため、舞鶴海軍工廠が中心となって実験研究が進められ、先ずコンクリート製被曳航輸送バージが試作され、その成果をもとに本船が建造された。就航して実用性を示すことが出来たが、本船は鋼船に比して載貨重量が少なく、経済的には無理であった。 	
6. 参考資料・文献(本表に収まらない場合は別途添付する)	<ol style="list-style-type: none"> 1.小野塚一郎 戦時造船史 今日の話題社 1989 2.牧野茂他 海軍造船技術概要 同上 1987 3.遠山光一他 鉄筋コンクリート船の一設計 造船協会会報第75号 1944 4.雑誌別冊歴史読本旧軍史跡 新人物往来社 2009 防波堤になった戦時急造船コンクリート船 5.安浦町まちづくり協議会ホームページ コンクリート船 武智丸 web 	別に資料の準備あり。